

## 日本考古地磁気データベース Japan Archaeomagnetic Database

畠山 唯達<sup>1\*</sup>

Tadahiro Hatakeyama<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 岡山理科大学情報処理センター

<sup>1</sup> Information Processing Center, Okayama University of Science

地球の外核内でダイナモ作用によって生成される地球磁場（地磁気）は非常に複雑な変化をしており、周期的な変動はほとんど見つかっていない。そのため、長期間に渡る地磁気の変動を追うためには、さかのぼれる限りの観測のほか、岩石に刻まれたいわば地磁気の化石を古地磁気学的手法で測定する必要がある。中でも過去数百年～数千年と言う比較的最近の地磁気の様子については、人類の活動の跡である考古遺跡から発掘されるさまざまな遺物・遺構について古地磁気学を施すことができる。このようなもののうち、土器、瓦やそれらを焼いた窯などの被熱試料は、安定かつ信頼性の高い熱残留磁化を保持していて、古地磁気測定をするのには非常に適している。このような学問分野を考古地磁気学と呼ぶが、日本では1950年代からこの分野の研究は継続的に行われてきた。その積み重ねはデータベースとしてアーカイブされ、地磁気永年変化研究の基盤となるべきものであるが、残念なことに日本の考古地磁気データベースはHirooka(1983)を最後に世界的に紹介されたものがない。そこで我々は、これ以降のデータを含め、現在信頼もって古地磁気方位データ・強度データおよび考古学的年代値をもつデータを集め新たなデータベースを構築中である。さらに、このデータベースをオンライン化、Webサービス化し、地磁気研究者だけでなく広く考古学研究者や一般の考古学に興味を持つ人々にも触れていただきたいと考えている。今回は2012年度から実装を開始した日本考古地磁気データベース（オンライン版）について、その思想、設計とサービスの紹介をしたい。

キーワード: データベース, 考古地磁気学, 考古学, 地磁気永年変化, ダイナモ

Keywords: database, archaeomagnetism, archaeology, geomagnetic secular variation, geodynamo